月報
岡崎の教育

平成26年1月1日
1月号
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想 …… 1
岡崎市医師会会長
村山　憲氏
この人に聞く …… 2
岡崎まちゼミの会代表
松井洋一郎氏
羅針盤 …… 2
技術・家庭科指導員
近藤　善紀
ふれあい …… 3
三島小　二村　帆波
特集 …… 4
岡崎の歴史と共に
歌い継がれる「岡崎市歌」
お知らせ …… 6
フォト・ヒストリー …… 8
学区文化展（昭和60年）
この本を …… 8

教育随想

衣食足りて礼節を知る

岡崎市医師会会長
村山　憲　氏

「衣食足りて礼節を知る」。言い換えれば「生活にゆとりが出来てくれれば道徳意識はおのずと高まり、礼儀や名誉を重んじて恥ずかしさを知るようになる」となります。

今の日本は物があふれて豊かになっています。スーパー、コンビニ、ショッピングセンター等に行けば、色とりどりの衣服が飾られ、様々な種類の料理が並び、ありとあらゆる物が、簡単に手に入るようになりました。

物は豊かになりましたが、一方で人と人との心の繋がりは豊かでしょうか。例をあげれば、シルバーシートを若者が占拠し、周囲の迷惑を考えずに携帯電話で会話し、お互いの肩と肩が触れただけで怒鳴り合いとなる等、どれ一つとっても人に対する心配りや思いやりを備えていない道徳心の欠如であり、およそ礼節を知るどころか、礼節ますます乱れるがごとしというのが現実ではないでしょうか。

今の時代から比べれば、衣食が決して豊かではなかった我々の時代を引き合いに出すまでもなく、人々は豊かであるかどうかにかかわらず、人と人との繋がりを大事にし、同様に一つの物もそれぞれ大事に扱ってきました。誰に教わることもなく周りの環境がそうさせたのかもしれません。このような無意識にとってきた行動が、日本人は礼儀正しい民族であると世界に認知され、手本にされてきたと思います。しかしながら、この素晴らしい素地、共通のDNAが継承される社会が徐々に失われていくのではないかと危惧しているのは私だけでしょうか。

殺伐とした社会が訪れないための方策の一つとして、純な心をもった子供たちに「礼に始まり礼に終わる」思いやりの心を育み、行動することのできる環境を作ることを急がねばなりません。子供の行動が大人社会に大きなインパクトを与えることは、これまでいろいろと証明されています。それゆえに、学校、家庭、地域の皆さんがこれまで以上に連携を深めて、子供たちと一緒になって地域社会の輪を広げることが、日本人の原点に戻ることになると信じております。

（むらやま　けん）

三方良しのまちづくり

岡崎まちゼミの会代表
松井洋一郎　氏

「家業である化粧品店の四代目として岡崎に戻ってきたのは、二十三年前です。生まれも育ちも岡崎の康生町だったので店を継ぐことにはまったく抵抗はありませんでした。でも、戻ってきたときに、このまちで商売をするのは無理だと思いました。」

当時のことを思い出しながら、感慨深く松井さんは話し始めた。

中心市街地の人口が減少し、郊外の人口が増加するドーナツ化現象に伴い、商業施設も、郊外に大型店が進出した。岡崎でそれまで栄えていた中心市街地、商店街は目に見えて衰退する状況となった。

「私が子供だった頃の康生町は、買い物客でにぎわい、活気がありました。年々衰退していく様子を見ていると寂しくなり、何とかしたい、育ててくれたまちに恩返しがしたいという気持ちになりましたね。」

と語る松井さんからは、生まれたまちに対する愛着の深さを感じた。

そこで、この商店街を魅力あるまちとして再構築するための事業「得するまちのゼミナール」いわゆる、まちゼミを平成十五年に立ち上げた。松井さんが、まちゼミを考案する中で大切にした要素は、二つあると言う。

「一つは利益です。商売を成立させ、続けていくために、利益は重要です。そして、もう一つは人です。中心市街地や商店街の店が、大型店の品揃えや価格、利便性に立ち向かうことは難しい。でも、商店街には商品にこだわりをもち、技術や知識が豊富で、お客さんのニーズに応えることができるプロの店主やスタッフが、たくさんいます。なんとかしてお客さんとこれらのプロをつなげたい。そうすることが、商店街を元気づけると思ったのです。それが、まちゼミの始まりだったのです。」

まちゼミは、店主やスタッフが講師となり、専門的な知識や技能を受講者に教えるというものである。

「例えば、文具店では万年筆の使い方講座を、化粧品店では眉描きやアイメイクレッスンを行っています。お客さんは、商品の知識などが無料で得られます。そして、店は、直接お客さんとコミュニケーションが取れて、ファンやリピーターが増えます。結果、来店客の増加につながります。これは、買い手良し、売り手良し、世間良しの三方良しの精神に通じるものです。」

と松井さんは、熱く語った。

「第一回のまちゼミは、参加店が十店で参加人数は一九九名でした。規模は大きくありませんでしたが、継続して実施したことで、年々広がりをみせ、今では参加店が八十店、参加者は一五〇〇名を超えるまでになりました。」

着実に発展するまちゼミの様子を見て、気付いたことがあるという。

「参加した店主やスタッフの多くは、当初はまちづくりという意識はほとんどありませんでしたが、継続する間に、人やまちに貢献したいという気持ちをもつようになりました。また、開催後の報告会などを通じて、店主同士やスタッフが一つになって、まちのことを考えようとする意識が芽生えたのもうれしかったですね。かつてのにぎわいのようにはならなくても、まちゼミを続けることは、人と人とのつながりを生み、まちの衰退を食い止める力になります。」

そう語る松井さんの目には、十年後、二十年後の新しいまちの姿が、見えているのかもしれない。

（氏　　名　まつい　よういちろう
生年月日　昭和四十三年九月二十六日
住　　所　岡崎市康生町）

未来を照らすものづくり

技術・家庭科指導員
近藤　善紀

中学校二年生、エネルギー変換に関する技術の授業。新任のA教諭は、持続発展可能な社会構築と新エネルギー利用との関わりについて子供たちに考えさせるため、発電と環境との関連をテーマに単元を構想した。

子供たちが集まった指導机に登場したのは、A教諭手作りの発電教具。モーターに取り付けられたプロペラは実に精巧で、A教諭が注いだ技術と知恵、さらに熱い思いが汲み取れる。風を受けたプロペラが回る。子供たちは一斉に身を乗り出し、視線はプロペラ一点に注がれた。

「今日は、みんなもプロペラを作ります。ただし、環境に優しいCO_2排出ゼロの風力発電のプロペラです。回りがよければ発電効率も高い。勢いよく回るプロペラを作りましょう。」

A教諭の投げかけに子供たちはうなずき、目を輝かせた。「作りたい」

二列目の誇り

三島小　二村　帆波

「私はなぜ一列目になれないの。」

ある日、A子が顧問の私に尋ねてきた。合唱部の子供たちにとって、合唱隊形の一列目に立って歌うことは憧れである。A子は六年生。最後のコンクールである。今年こそはいちばん前に立ってライトを浴びたいという思いが強かった。しかし、すべての六年生を一列目にするわけにはいかない。パートのバランスを保ち、合唱を成立させるためには、列を構成するメンバーにそれぞれ異なる役割がある。適材適所に配置することが重要であった。そのことを、A子が理解できるように言葉を選んだ。

「それぞれの立ち位置には役割があるのだよ。音程が不安定な子もいるから、その子たちを支えるために、A子は二列目で歌ってほしい。」

そう話すと、彼女は少しの沈黙の後、

「そうなんだ。」

とつぶやいた。それ以来、一列目になりたいという言葉は口にしなくなったが、表情には暗い陰があった。

ある日の練習で、ペアになり、互いの声の聴き合いを行った。そのとき、A子がアドバイスする声が私の耳に届いてきた。

「最初の歌詞の『な』の音が下がっている。歌い出しの準備が遅いよ。歌う前にもっと意識して目と眉毛を上げるようにするといいよ。」

うまく歌えていない四年生に、具体的に歌詞を指摘し、改善法を与えていたのだ。私はすかさずその場で

「A子さんのアドバイスが、すごくいい。相手の声をよく聴いて、どの歌詞のどの言葉を、どのように直したらいいのかを教えてあげて。」

とA子の助言を取り上げて称賛した。すると、周りの六年生が、A子の助言の仕方を真似し始めた。そして、練習に活気が生まれていった。この日から、A子の表情が変わった。ペア練習では、今まで以上に、生き生きと後輩に教える姿があった。さらに、A子は、合唱台を進んで片付けたり、最後まで残って音楽室を点検したりと、部のために動くようになっていったのである。

ある日、A子からこんな手紙をもらった。「先生がアドバイスの仕方を褒めてくれて、うれしかったです。実は、二列目にいることが悔しかったので、練習に対してやる気がなくなっていました。でもこれじゃいけないと思い、二列目の良いところを見つけようと思いました。二列目は、三列目の四年生の声がよく聞こえるから、音が外れたとき、教えてあげられるし、二列目のアルトで六年生は私しかいないので、自分の声がよく聞こえることです」とつづられていた。手紙は、「私は、今は二列目が好き。二列目で歌うことは、私の誇りです」と結ばれていた。

この手紙を読んで、涙がこぼれた。そのとき私は、コンクールの課題曲である「ふるさと」の歌詞が頭を巡った。

「雨降る日があるから虹が出る
苦しみぬくから強くなる」

A子は、まさに苦しみを越え、自らの手で虹をかけ、強くなっていったのだった。

NHK全国学校音楽コンクール全国大会の日、晴れの舞台で、私は指揮者として子供たちの前に立った。そのとき、A子と目が合った。「二列目の誇り」をもち、自信に満ちたA子がそこにいた。彼女の表情が、私や合唱部の仲間に落ち着きを与えてくれた。演奏後、笑顔でテレビ局のインタビューに答えるA子。A子の姿は、私にとっての誇りとなった。

という気持ちが一気に高まり、この授業の目標が見えた瞬間だった。

A教諭が製作した教具には見覚えがあった。教育研究大会で、先輩のB教諭が提案したタービンカーの構造を活用したものだ。B教諭の提案に心を動かされたA教諭は、そこに自身の工夫を加えて、今度は目の前の子供たちの心をつかみ、動かした。

プロペラ作りが始まった。材料にしたのは、子供たちが家庭から持ち寄ったペットボトル。リサイクルの観点もよいが、切断したり、形を変えたりすることが容易で、自分の思いを具現化しやすい。こうしたところにも、A教諭の、子供に寄り添った意図が見えた。問題意識を高めた子供たちの製作活動は、実に活力に満ちていた。切る、ねじる、折り曲げる。様々な工夫を加え、実験装置に取り付けて確認を繰り返す。そうした中で、子供たち同士の関わり合いが自然に発生し、製作の進行とともに深まりを増していった。

ものづくりは、知恵と技術、思いの集結である。そして、熱い思いこそが生活を豊かにする技術の具現を可能にする。将来を担う子供たちの育成に向け、若い教師が熱い思いをもつことで、未来を照らすものづくりを伝え続けてくれることが頼もしい。

岡崎の歴史と共に歌い継がれる「岡崎市歌」

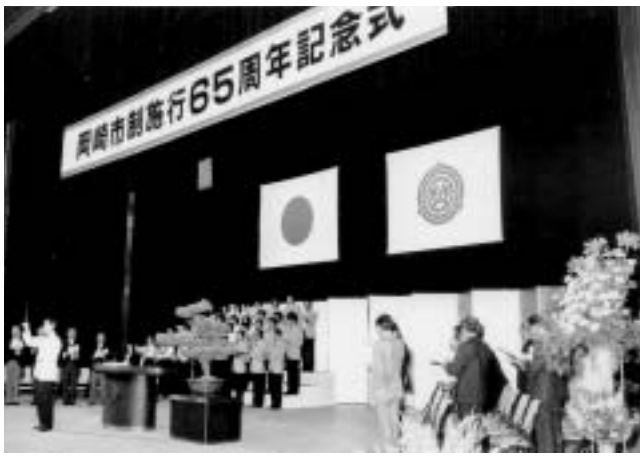
▲ 岡崎市・額田町合併記念式典　新年交礼会　平成18年

岡崎市制九十八年を数える今年の元日、新年交礼会では、恒例の「岡崎市歌」が、参加者により晴れやかに歌われた。「市歌」は、七十七年の歴史をもち、北原白秋（作詞）、山田耕筰（作曲）という偉大な二人による作である。この二人によって作られた曲は、全国様々な学校の校歌や童謡など、数多くある。

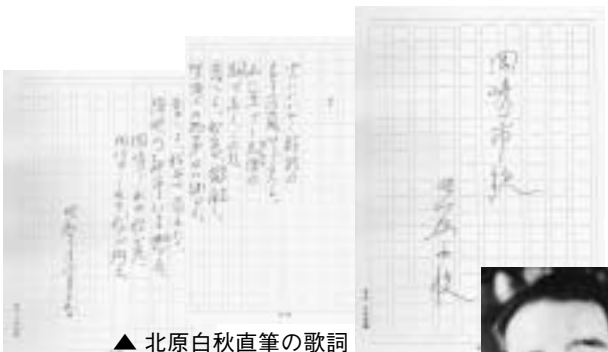
普段耳にすることが少ない「市歌」だが、元日に行われる新年交礼会と、七月一日の市制記念式典では必ず歌われている。今までには、小中学生や高校生が歌ったり、演奏したりしている機会もあった。平成十八年、岡崎市・額田町合併記念式典の新年交礼会では、岡崎ジュニアコーラスと額田中学校の生徒による歌に、岡崎ジュニアシンフォニックオーケストラが伴奏を担当し、式典を盛り上げた。

岡崎には「市歌」のほかにも、中学校の総合体育大会開会式や岡崎のハーモニーのオープニングなどで歌われる「岡崎讃歌『緑と太陽の町』」や小中学校の行事はもちろん岡崎市の様々なイベントでも歌われる「おかざきの心の歌」がある。どの曲も、ふるさと岡崎の歴史と共に歌い継がれる歌である。

偉大な先人を輩出している私たちのふるさと岡崎は、矢作川の流れなど自然環境にも恵まれた土地であり、繊維産業など様々な産業によって栄えてきた。岡崎に暮らす者の誇りを胸に、歴史と伝統の香る「市歌」を大切に、これからも末永く歌い継いでいきたいものである。



▲ 市制記念式典　昭和56年



▲ 北原白秋直筆の歌詞

北原　白秋　　詩人、童謡作家、歌人
明治18(1885)年生まれ　享年57歳
【代表作】『からたちの花』『この道』『ペチカ』『待ちぼうけ』『赤い鳥 小鳥』など

「市歌」に関連した歴史

大正５年７月１日
　岡崎市市制施行と共に、「旧市歌」を発表する。
昭和11年
　市制20周年に伴い、「市歌」の改定を企画する。
昭和12年
　市歌制定委員会が、歌詞を北原白秋に、作曲を山田耕筰に依頼する。
同年６月18日
　「旧市歌」から「現市歌」に改訂の告示をする。
同年７月１日
　第21回市制記念式典にて発表する。
昭和36年
　新年交礼会、市制記念式典で「市歌」が歌われるようになる。
昭和37年
　本市における、市民意識の高揚を図るため、「市歌」を定める条例を公布する。

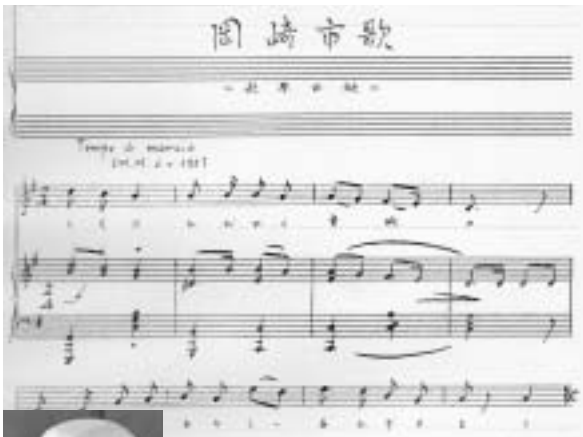
歌い継がれる「市歌」

▶「市歌」を扱った音楽の授業（甲山中）

「市歌」を歌った生徒の感想

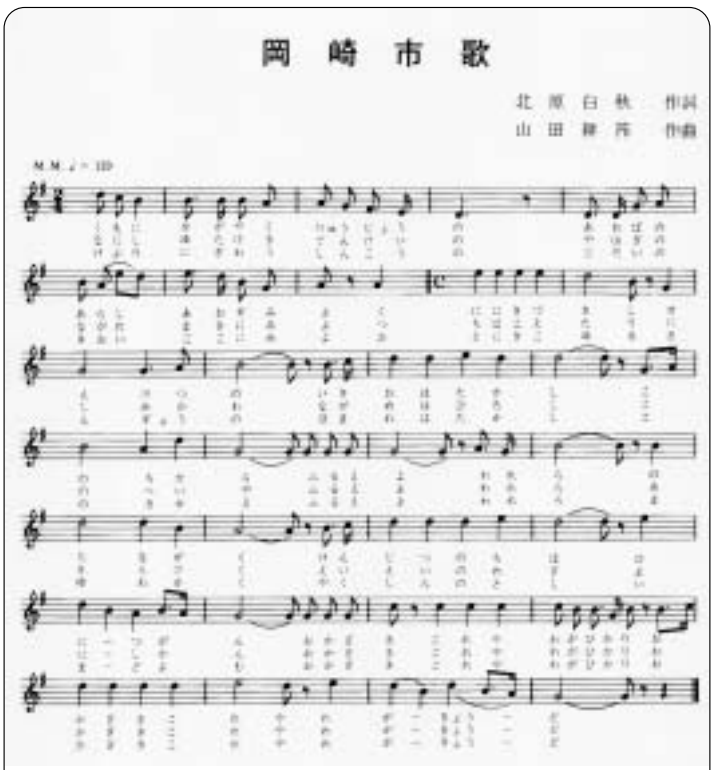
　明るく、力強い歌だなと思いました。はずんで歌っているようで、前向きでいいなあと思います。こんな歌があるなんて、全く知らなかったので、おかざきの心の歌「夢」三部作とはまた違った感じの曲があったことに驚きです。けっこう私は気に入りました。

（甲山中１年　大山友花里）



▲ 山田耕筰直筆の楽譜

山田　耕筰　　作曲家
明治19(1886)年生まれ　享年79歳
【代表作】『からたちの花』『この道』『赤とんぼ』『ペチカ』『待ちぼうけ』など



岡崎市歌

北原白秋　作詞
山田耕筰　作曲

一、雲にかがやく　竜城の
青葉の嵐　仰ぎ見よ
国に築きし　先傑の
勲は高し　この力
奮えよ我等　後永く
堅実の地歩　日に継がん
岡崎これや　わが光
岡崎これや　わが郷土

二、名にしゆたけき　天恵の
矢作の流　まさに見よ
土は肥えたり　西三河
眺は広し　この平野
奮えよ我等　明らけく
営々の業　世に布かん
岡崎これや　わが光
岡崎これや　わが郷土

三、煙にぎわう　新興の
時代の勢　ここに見よ
音にきこゆる　産業の
誉は高し　この栄
奮えよ我等　眉わかく
躍進の都市　いまどよむ
岡崎これや　わが光
岡崎これや　わが郷土

元矢作中学校長　杉本　安先生のお話

　新年交礼会で「市歌」の指揮をさせていただいたときには、皆さんが一生懸命歌っているのが分かり、うれしくなります。毎年２回大勢の市民が歌う機会があることは、近隣の他市に比べても、恵まれているのではないかと思います。若い世代にも多く歌ってほしいと思います。

▲ 市制記念式典　平成25年

● 教育最新情報

○平成二十六年度全国学力・学習状況調査

◆調査の対象

小学校六年生、中学校三年生

◆調査事項

小学校は国語・算数、中学校は国語・数学で、主として「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を出題し、調査する。調査対象の児童生徒への質問紙調査、学校に対する質問紙調査も行われる。

◆調査の方式

今年度に引き続き、小学校六年生と中学校二年生の全児童生徒を対象とする悉皆（しっかい）調査が行われる。

本調査を行うことにより、全ての市町村、学校等の状況を把握するとともに、経年変化分析や経済的な面も含めた教育格差を把握するための調査等についても実施し、きめ細かい把握・分析を行う。

これによって、教育施策の成果と課題に関する検証改善、児童生徒に対する教育指導の改善等をきめ細かく行う。

なお、平成二十七年度の調査では、調査する教科に理科が加わる予定である。

◆調査実施日

平成26年4月22日（火）

○平成二十六年度岡崎市教員免許状更新講習

平成二十六年度も、岡崎市による独自の教員免許状更新講習を行う。市内で、夏期休業中に、無料で行う。

岡崎の教育に携わる講師によって行い、岡崎の教育の現状をふまえた実践的な講習内容とする。

◆受講対象者

1　岡崎市立学校・幼稚園に勤務する本務職員と常勤講師・非常勤講師・教員補助者で、次の生年月日（平成28年3月31日時点の満年齢）に該当する者

昭和35年4月2日～36年4月1日（満55歳）

昭和45年4月2日～46年4月1日（満45歳）

昭和55年4月2日～56年4月1日（満35歳）

2　1以外で、延期申請を行い、修了確認期限が、平成27年3月31日の者

3　その他、岡崎市教育委員会が必要と認める者

各園・学校で受講対象者について確実に把握するとともに、受講対象者自らがしっかりと自覚し、確実に更新講習受講の申請をしていきたい。受講申込書の提出は、四月に行う。

◆受講申し込み期間

平成26年4月1日（火）～4月18日（金）

◆講習期日と会場

①必修講習

平成26年

8月2日(土)・3日(日)

②選択講習

平成26年　8月5日(火)・6日(水)・7日(木)

会場は総合学習センター等

◆受講対象者説明会

平成二十六年度の受講対象者に対して、説明会を次のように行う。

日時

平成26年2月28日（金）

午後五時半～

場所

総合学習センター

大ホール

○平成二十六年研究発表校・発表期日

来年度の研究発表予定校は、次の十一校である。市委嘱校が四校、自主発表校が七校で、自主発表校の内、竜海中と六名小は紙上発表である。

◆市委嘱研究発表校（四校）

常磐中学校　六月十三日（金）

美川中学校　六月二十日（金）

豊富小学校　十月十五日（水）

愛宕小学校　十一月十二日（水）

◆自主発表校（七校）

井田小学校　十月十日（金）

葵中学校　十月二十二日（水）

本宿小学校　十月二十九日（水）

矢作南小学校　十一月十八日（火）

連尺小学校　二月十三日（金）

竜海中学校　二月二十三日（月）

六名小学校　三月十三日（金）

◆附属学校

附属岡崎小学校　六月三日（火）

附属岡崎中学校　九月三十日（火）

附属岡崎特別支援学校　十一月七日（金）

●表彰

◆第10回全日本中学生女子相撲大会
軽量級　優勝
六ツ美北中三年　佐野　清香

◆日本学校合奏コンクール2013全国大会
ソロ部門金賞（アルトサックス）
北中三年　松橋亜里紗
アンサンブル部門金賞（クラリネット四重奏）
北中学校

※左は全国審査進出者、進出校
ソロ部門（アルトサックス）
北中三年　大崎　文那
ソロ部門（クラリネット）
北中三年　山崎　光来
ソロ部門（ヴァイオリン）
福岡中三年　福本　春
アンサンブル部門（弦楽五重奏）
福岡中学校
アンサンブル部門（サックス四重奏）
北中学校
グランドコンテスト部門
城北中学校

◆第48回全国野生生物保護実績発表会
日本鳥類保護連盟会長賞
東海中学校　自然科学部

◆灯台絵画コンテスト2013（全国）
小学校高学年の部　銀賞
広幡小六年　市川　菜月
小学校高学年の部　銅賞
広幡小四年　市川　悟也

◆全国中学生バレーボール選抜強化選手　日・韓交流戦日本代表
南中二年　中川　美柚

◆CBCこども音楽コンクール中部日本決勝大会
小学校合唱部門　最優秀賞
三島小学校
中学校合奏第一部門　最優秀賞
城北中学校
中学校重奏部門　最優秀賞
城北中学校B

※三団体とも全国審査に進出
中学校重奏部門　審査員特別賞
城北中学校A

◆第11回愛知県中学生アーチェリー大会
30・30M部門女子　一位
東海中二年　河合　莉沙
30・30M部門女子　二位
東海中二年　伊藤　沙希
30・30M部門女子　三位
東海中二年　加藤　咲貴

◆第62回愛知県中学校駅伝大会
男子の部
二位　甲山中学校
三位　竜海中学校
四位　矢作中学校
七位　翔南中学校
女子の部
三位　六ツ美北中学校
五位　甲山中学校
七位　矢作北中学校
区間賞
②矢作中二年　伊藤　太貴
③甲山中三年　橋本　曜
④甲山中三年　林　澪
⑥竜海中三年　惣卜真一郎
④甲山中二年　井上　侑

※行頭の数字は走った区間

◆第31回愛知県中学生バレーボール新人大会
男子の部
二位　竜南中学校
三位　竜海中学校
女子の部
二位　矢作北中学校
三位　竜海中学校

※四チームとも東海大会出場

◆第63回全国小・中学校作文コンクール愛知県審査
小学校低学年の部　最優秀賞
六名小二年　千葉　隼人
小学校高学年の部　最優秀賞
矢作東小五年　今橋　美結
小学校高学年の部　優秀賞
矢作東小六年　大町　彩菜
矢作東小五年　鈴木　杏季
矢作東小五年　原田　千夏
小学校高学年の部　佳作
矢作東小六年　伊澤　誠也
矢作東小五年　水野　祐麻
矢作東小五年　正木　松代
中学生の部　優秀賞
矢作北中一年　鈴木　絢香
中学生の部　佳作
矢作北中二年　紀平　梓実

◆平成25年度愛知県防火作品コンクール
ポスターの部　準特選
本宿小五年　古田ひより
ポスターの部　入選
六ツ美西部小六年　石川　里南
習字の部　準特選
美合小六年　櫻井　仁生

◆平成25年度愛知県少年消防優良クラブ・優良指導者表彰
優良クラブ
上地小学校
夏山小学校
優良クラブ指導者
井田小教頭　市川　充

◆愛知県統計グラフコンクール
指導者賞
竜谷小教諭　林　俊樹
教育指導賞
連尺小学校

◆平成二十五年度第四十回岡崎市小中学生作文コンクール
最優秀賞
井田小四年　神谷　聡己
竜南中二年　山本　拓人
優秀賞
城南小二年　中根　翔子
根石小三年　本多　璃子
甲山中一年　柳下遼太郎
葵中三年　畔柳　亜美

◆第十回徳川記念財団コンクール in 岡崎　徳川家康公作文コンクール
最優秀賞
附属中二年　田中　美帆
優秀賞
緑丘小四年　井上　雅大
竜美丘小六年　小川　翔英
大樹寺小六年　畑中　未都
市長賞
常磐小六年　茂原　和希
附属小六年　杉浦　奨

学区文化展

（昭和60年）

写真提供：北野小学校

・カット　上地小　山中　武

昭和六十年四月、市内四十一番目の新設校として北野小学校が誕生した。学校文化の構築に精力的に取り組んだ本校は、「造形おかざきっ子展」に出品した作品を学校でも展示し、保護者だけでなく、学区の方々にも見ていただこうと、文化展を計画した。文化展は、学区各種団体及びＰＴＡの協力で、「学区文化展」と称して開催した。この写真は、その第一回文化展の様子である。学区を巻き込んだ文化展は、現在も受け継がれている。写真の中に写っているマークは、北野廃寺の鬼瓦に北野の文字を配したもので、この文化展を開催した四か月後に「校章」として披露された。

学校文化は地域に広がり、共に心の豊さを求める場となって、深くつながっている。

オアシス

幼い我が子の手を引いて公園へ行くと、そこで元気よく遊ぶ子供たちの姿は少ない。子供たちの遊び方もずいぶん変わった。正月に、凧揚げや羽根つきをすることが子供たちにはあるのだろうか。

外遊びの機会が減った今、伝統的な遊びを教え、学校で体験させることが、日本の心を伝えることにつながると思う。

新年交礼会、市制記念式典と「市歌」を耳にする機会がある。北原白秋、山田耕作という偉大な両氏によって作られた歌であるのに、知らないことがもったいないような気がする。今を生きる我々が、過去から未来へ高らかに歌い継いでいきたい。

「岡崎これやわが光　岡崎これやわが郷土」と。

あたたかい人間関係をも再構築していく「まちゼミ」。価格、利便性、品揃えばかりに重きをおいた結果、近年の社会では、商品を介した人とのつながりが薄れてしまった。

売り手も買い手も、三方良しの精神に通じる、豊かなまちの定義を改めて考える時期にきていると感じた。

墨の香りの漂う中で、心を落ち着かせ、紙と対峙する。新たな一年の始まりにふさわしい凛とした気持ちで迎える書き初め。豊かな一年となるように願いを込める。

＊伝え方が９割　佐々木圭一
ダイヤモンド社　￥1,470

この一文

感動的なコトバは，つくることができる。

「愛している」「愛してる」この２つの言葉の意味は同じであり，国語として正しいのは前者である。しかし，相手の心に響くのは後者である。「後方のお客様，前のお客様が出られるまでお席でお待ちください」「後方のお客様，お時間がかかってしまうので，ごゆっくりお支度ください」どちらが聞いていて心地よいかは明確である。このように，どの言葉が相手の心に響くかということを徹底的に考察し，提示しているのが本書である。コミュニケーション能力の向上や，日々の教育活動を円滑に進めるためのヒントが満載されている。

＊「読む・書く・話す」を一瞬でモノにする技術　齋藤　孝
だいわ文庫　￥683

＊生きることはおもしろい　五木　寛之
東京書籍　￥1,260

＊THE 教師力　堀　裕嗣編「THE教師力」委員会
明治図書　￥1,050

生平小　市川　敏彦